わが市を語る 1

会津若松市（福島県）

会津若松市長　室井照平

「住み続けたい」「訪れたい」「選ばれるまちの実現に向けて

会津若松市の概要

会津若松市は、東北地方の南部に位置する福島県にあり、福島県の西部に位置する会津地方の中核都市です。日本でも有数の規模を誇る湖である猪苗代湖と布引山や大戸岳などの山並みに囲まれた、数多くの川が流れる自然豊かなまちです。

奈良時代に編纂された『古事記』に、会津の地名の由来となる「相津」が登場することから、ヤマト政権から重要視されていたことが分かります。中世以降は、代々の領主・藩主が市の中心市街地である旧若松市を会津地方の中心地として治め、漆器や酒造などの産業振興が図られ発展し、歴史上激動期の一つである幕末明治期を迎えました。

中心市街地の歴史的景観や、まちなみ景観が城下町の風情を残し、本年6月19日に、「会津若松市歴史的風致維持向上計画」が国の認定を受けました。

起き上がり小法師

赤べこ

第7次総合計画に基づくまちづくりの推進

本市では、平成29年に「会津若松市第7次総合計画」を策定しました。全国の自治体と同様に、人口減少問題は本市の最重要課題となっており、10万人程度の長期的な安定人口の実現を目指し、五つの政策目標、42の政策分野を掲げ、取り組みを進めています。

「1. 未来につなぐひとづくり」では、少子化対策の一環として、「地域で子育てを支える意識づくり」を図るため、令和4年10月に「ベビーファースト宣言」を行いました。行政のみならず、市民・企業・事業所の皆さまが一丸となって「安全・安心に子どもを産み育てることができる地域づくり」に取り組んでいます。また、東京圏からの移住を後押しする移住支援金や、東京圏以外からのUターン・孫ターンを後押しするUターン等移住給付金などの移住支援を行っています。

「2. 強みを活かすしごとづくり」では、新たに10ha程度の工業団地の整備にも着手しました。観光面では、本年4月にリニューアルオープンした鶴ヶ城の一層の魅力向上を図るとともに、昨年全線で運転再開した只見線を契機とした観光振興を強化するなど人口交流拡大に向けて取り組んでいきたいと考えています。当面の目標はコロナ前の入込客数300万人まで戻すことです。インバウンド観光はタイ、台湾、欧米豪などを主なターゲットとして、周辺自治体やスキーリゾート施設と連携して広域で稼げる流れを模索しています。

「3. 安心、共生のくらしづくり」では、令和3年12月に「ゼロカーボンシティ会津若松宣言」を行い、2050年までのできるだけ早い時期に、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロ

会津清酒

にすることに、全市一丸となって取り組む決意を表明しました。

「4. 安全、快適な基盤づくり」では、除雪情報提供システムにより、インターネットなどで市全域の除雪車稼働状況を確認することができ、除雪状況をデータとして蓄積、分析し、除雪作業の効率化、最適化を図っています。

「5. 豊かで魅力ある地域づくり」では、情報や防災、市民サービスの拠点や市民生活を支える中心施設として、現在の本庁舎を中心に新庁舎を整備します。昭和12年に建設された本市のシンボルである市役所本庁舎旧館については、その活用に向けた検討を進めながら整備を進めており令和7年度からの供用開始を予定しています。主要交通の拠点であり、本市の玄関口である会津若松駅前については、交通動線などを整理しながら、駅および駅周辺施設の利用者などの安全性と利便性の向上に向けた検討をしながら整備を進めています。県立会津総合病院跡地の利活用については、「子どもの屋内遊び場」を核としたさまざまな世代が交流できる施設の整備に向け、官民連携で取り組んでいきます。

鶴ヶ城

スマートシティ構想による利便性の向上、地域経済活性化へ

本市では全国に先駆けた先進的な取り組みを推進しており、全国のモデルケースとなっています。「デジタル田園都市国家構想推進交付金デジタル実装タイプ　TYPE3」の事業については、事業費単位では全国最大規模となる約8億3000万円で採択されました。この採択は本市における地方創生の取り組みが国から最大限の評価をいただいた証しと言えます。これらの取り組みを次のステージに進めるべく、スマートシティの体験・説明会などを通して市民の皆さまに取り組みの成果と利便性を実感していただき、ご意見を伺いながら、さまざまなデジタルサービスの普及に取り組んでいきます。今秋以降、デジタル地域通貨「会津コイン」を使ったプレミアムポイント事業を開始する予定です。参加店舗に協力していただき、ユーザーを増加させるために体験してもらう機会を作っていきます。地道に普及を図り、利便性の向上、地域経済活性化につなげていきます。

最後に

子どもたちが大人になった時に「ここで暮らし続けたい」と素直に思える、私たちが高齢者になっても「ここで暮らし続けたい」と心から思える、そんなまちでありたいと思っています。市民の皆さんとともにさまざまな課題に向き合い、地域を盛り立てるために一人一人の思いを受け止めながら、市民の皆さんはもとより、市外の方からも「選ばれるまち」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

プロフィール

◆面積　382・99㎢
◆人口　11万2988人
◆世帯数　4万9281世帯

〔将来都市像〕「住み続けたい」「訪れたい」選ばれるまち

〔まちの特徴〕福島県の西部に位置し、猪苗代湖と山並みに囲まれた自然豊かなまち

〔市町村合併〕平成16年11月1日に会津若松市と北会津村の2市村が合併、平成17年11月1日に会津若松市と河東町の2市町が合併

〔特産品〕赤べこ、起き上がり小法師、会津絵ろうそく、会津漆器、会津木綿、日本酒

〔観光〕鶴ヶ城、国指定名勝 会津松平氏庭園 御薬園（おやくえん）、さざえ堂、会津武家屋敷、飯盛山、會津藩校 日新館、七日町通り、東山温泉、芦ノ牧温泉

〔イベント〕会津まつり、鶴ヶ城ハーフマラソン大会、会津ブランドものづくりフェア、地産地消まつり、十日市、会津絵ろうそくまつり

会津若松市長
室井照平

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

桜川市（茨城県）

桜川市長 大塚秀喜（おおつかひでき）

ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち 桜川

桜川市は、茨城県の中西部にあり、東京から70～80㎞圏に位置しており、茨城県初となる国の重要伝統的建造物群保存地区の「真壁の町並み」をはじめ、安産子育ての霊場として広く知られる「雨引山楽法寺（あまびきさんらくほうじ）」（雨引観音）など、数々の歴史的遺産や名所旧跡が現存しており、豊かな歴史に彩られたまちとしても知られています。

また、日本三大石材産地として知られる真壁地区では、質の高い「真壁石」を使用した石材加工業が盛んで、中でも真壁石燈籠は国の伝統的工芸品にも指定されています。

情緒あふれる真壁の町並み

境内にアジサイが咲きそろう雨引観音

2024全国さくらシンポジウムin桜川

本市の桜は、古くから「西の吉野東の桜川」と並び称され、市民の皆さまに親しまれています。市内にある櫻川磯部稲村神社の参道周辺が国の名勝に、名勝指定地内にある桜も国の天然記念物に指定されているほか、本市を囲む山々には約55万本のヤマザクラが自生しているといわれ、そのヤマザクラから採れるハチミツをクラフトビールに使用するなど有効に活用しています。

令和6年には、名勝指定100周年、国の天然記念物は指定50周年を迎えます。このような年に、本市を会場に市民と行政の協働による桜の名所の維持管理や、桜を生かしたまちづくりなどをテーマに「全国さくらシンポジウムin桜川」が開催されます。開催を機に地域のシンボルであるヤマザクラを全国にPRし、さらなる観光振興とヤマザクラをはじめとする地域資源を保全していく機運の醸成につなげてまいります。

本市では、平成30年度に策定した「桜川市ヤマザクラ保全活用計画」の中で、「日本を代表するヤマザクラの里の再生」を将来像に掲げ、地域の活性化と市民の郷土に対する誇りと愛着を育み、本市らしい真に持続可能な暮らしづくりにつなげることを目的としています。令和10年までに「名勝・天然記念物のサクラの保全」「里山の保全」「人材の育成」の三つを柱に、ヤマザクラと自然環境の保全を通して地域課題の解決につなげ、持続可能な桜川の暮らしを実現してまいります。

色鮮やかなヤマザクラが出迎える高峯山

念願の図書館開館へ

本市は、全国でも数少ない図書館のない市の一つであり、合併以降市内の公民館に併設された図書施設がありましたが、日本図書協会が示す図書館の基準を満たすものはなかったため、市民の期待に応えられない状況が続いていました。

一方、岩瀬地区にある岩瀬中央公民館は、躯体の健全性や劣化状況調査により、長寿命化はできないものの、施設の利用率や立地条件の良さから改築が望ましいという判定がされていました。このような状況から、児童・生徒の学習環境面や市民の知的・文化的活動の核となる拠点整備の必要性が高まり、そして、新市建設計画の施策にある「地域調和・環境共生の生活づくり」と「少子高齢化時代の地域社会づくり」の実現のため、市内で最も利用されている公民館と、これまで整備されてこなかった図書館を融合した複合施設の建設を進めることになりました。

図書館・公民館・支所機能を備えた複合施設（イメージ図）

この複合施設の完成により、次のような効果が見込まれます。一つ目は、情報通信技術（ＩＣＴ）やデジタルミュージアムなどの先進的な機能を盛り込むことで、新時代の生涯学習空間が創出されます。二つ目に、さまざまな学習ニーズに応えることのできる総合学習拠点となり、全ての市民の学習体験基盤となります。三つ目は、市役所の支所機能も併設することで、住民サービスの維持が図られるとともに、公民館や図書館の利用促進にもつながることです。

令和６年後半の開館を予定しており、市民の皆さまに満足していただける施設となるよう準備を進めてまいります。

さくらがわ人生応援プロジェクト

本市では、平成17年の合併以降人口減少が進み、令和４年４月には市内全域が「全部過疎」に指定されました。そこで、人口減少対策を解決すべき喫緊の最重要課題と捉え、今後も続く人口減少に歯止めをかけるため、令和５年度から市民の皆さまの人生をトータルで支援する「さくらがわ人生応援プロジェクト」を開始しています。

このプロジェクトでは、市民一人一人に市が伴走しながら、それぞれのライフスタイルに応じた支援を行い、「ずっと桜川市に住みたい」と思ってもらうことで、市外への転出者を減らすのが狙いです。

若者支援として、奨学金の返済や通勤費用の一部を補助したり、子育て支援として、出産時・就学時・中学入学時にお祝い金の給付や多子世帯の学校給食費を免除したり、高齢者支援として、長寿の節目ごとにお祝い金の贈呈や１人暮らしの高齢者への配食サービスを行っています。また、住宅取得への助成も手厚くするなど、桜川市に住み続けてもらえるよう、市民の人生を応援してまいります。

プロフィール

◆**面積**　１８０・０６㎢
◆**人口**　３万６８３７人
◆**世帯数**　１万３５０３世帯

〔将来都市像〕ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち　桜川

〔まちの特徴〕緑豊かな自然と名所旧跡が共存するまち

〔市町村合併〕平成17年10月１日、岩瀬町、真壁町、大和村の２町１村が合併

〔特産品〕真壁石燈籠（伝統的工芸品）、梵鐘、常陸秋そば、小玉スイカ、酒寄（さかより）みかん、日本酒

〔観光〕真壁の町並み（重要伝統的建造物群保存地区）、磯部桜川公園、高峯のヤマザクラ、雨引山楽法寺

〔イベント〕真壁のひなまつり、桜川の桜まつり、ＳＡＫＵＲＡフェスティバル、マダラ鬼神祭、大和の石まつり、真壁祇園祭

桜川市長
大塚秀喜

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

川西市（兵庫県）

川西市長 越田謙治郎

かわにし新時代へ。まず、〝子どもの幸せ〟から始めます

春を彩る懐古行列「清和源氏まつり」

川西市は兵庫県南東部に位置し、大阪近郊のベッドタウンとして発展してきました。利便性の良さと自然に恵まれた環境が特徴で、「清和源氏発祥の地」としても知られています。近年は、職住近接の観点から、本市の住環境の良さが改めて注目を集めています。そのような中で、令和6年度から始まる新総合計画策定に当たり、私たちはまず「子どもの幸せ」に着目しました。子どもたちの笑顔は、世代を超えたにぎわいや活力を生み、多くの人を幸せにする力があると考えるからです。

自治を育む。川西市がジブンゴトになる。

施策を進めるには、当事者が意思決定のプロセスに関わることが重要です。本市はこれまでも、市民をはじめ、さまざまな主体と連携して参画と協働のまちづくりを進めてきましたが、少子高齢化や価値観の多様化が進み担い手が不足するなど、これまでのやり方では限界にきています。時代の変化へ対応するには、市民がまちづくりを「ジブンゴト」と捉え、自発的に取り組める環境が必要です。その一環として、現在策定中の新総合計画では、多くの市民に策定過程から関わってもらえるような工夫を試みてきました。令和4年度には、市民と市長がまちのありたい姿を語り合うタウンミーティングを小学校区ごとに開催し、次に、まちのありたい姿の実現に向け、必要な方策を市民同士が議論する【かわにしミライ会議】を実施。いずれも若年層向けの広報が奏功し、10～40代の参加者が半数を占めました。また、誰でも手軽にまちづくりの情報を得たり、意見を発信できる場として、共創まちづくりのためのデジタルプラットフォーム【my groove（マイグルーヴ）かわにし】を開設したほか、市民の疑問に市長がリアルタイムで答えるインスタライブを隔月開催するなど、私が先頭に立ってさまざまなチャレンジを進めています。このような取り組みを通じ、市民からも、世代を超えて「子どもが幸せになるまち」「安心して子育てできるまち」を望む声が多く寄せられました。

笑い声が飛び交う！ かわにしミライ会議

子どもの笑顔が、まちを笑顔に

行政の最大の役割は、「一人一人がお金では解決できない課題に向き合うこと」だと考えます。特に子ども施策においては、子ども自身や家庭だけで抱えきれない（抱えるべきではない）、大きな悩みに寄り添う視点を大切にしています。施策の例として、令和4年度から主要28品目のアレルギーに対応した中学校給食の提供を始め

たほか、不登校の児童生徒が増加傾向にある中で、全ての児童生徒に学びの機会や校内での居場所を提供するため、全小中学校に「校内サポートルーム」を設置しました。さらに少人数授業の拡充に必要な職員の独自加配を行うなど、常に「これは子どもたちの幸せに直結するだろうか」と考え、教育委員会と連携しながら着実に取り組んでいます。大切なのは、あくまで全ての市民が幸せになることを最終目標としつつ、そのスタート地点を「子どもの幸せ」に置くという点です。時には市内の中学校に赴いて生徒と学校教育の未来を語り合うなど、対話を重ね、当事者を取り残さないという姿勢で臨んでいます。

未来に責任を持ち、持続可能なまちとするために

かつて本市の発展の原動力となった大規模住宅団地は、開発後50年が経過し、住民の多くが高齢化しています。まもなく高齢化のピークを迎える前に、地域医療の在り方を含めた医療制度改革にも取り組んできました。とりわけ市として大きな決断だったのは、老朽化や赤字経営の問題が生じていた市立病院と民間病院を統合し、市立総合医療センターを整備したことです。このことにより小児・周産期などの政策医療に加え、一部高度急性期機能を持つ新たな急性期病院に生まれ変わりました。また、圏域内の医療連携を進めるため、医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会、川西市・猪名川町内の4医療法人、隣接する猪名川町と地域医療連携推進法人を設立。法人内での病床を移動することで、市内で不足する回復期などを担う民間病院を旧病院跡地に開設することができました。

一連の取り組みは、指定管理者や地域の医療機関、三師会など多くの方との綿密な連携がなければ成し得なかったことですが、単なる市立病院の経営改革にとどまらず、地域医療の改革や地域包括ケアシステムの構築につながったものと自負しています。

市立総合医療センター（令和4年9月開院）

心地よさが息づき、笑顔つづくミライをめざして

コロナ禍に翻弄（ほんろう）された数年間を経て、誰もが「何気ない日常」の尊さを痛感しました。同時に、私たち現役世代には、今の暮らしで感じられる「心地よさ」を当たり前と思わずに、限られた資源を何に注力すべきか見極め、次世代へしっかりと引き継ぐ責任があります。そのためには既存の価値観や手法を根本から変えることも必要ですし、何より、市民と共に考え、取り組む姿勢が大切です。これからも変革の歩みを止めず、みんなの手でミライを彩るまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

◆面積　53・44㎢
◆人口　15万4565人
◆世帯数　7万1416世帯

〔まちの特徴〕
・大阪近郊のベッドタウンでありながら、市北部には「にほんの里100選」に選ばれた黒川地区を有するなど、都市の利便性と自然の調和がとれたまち
・令和元年度以降、ファミリー層（0～9歳と30～40歳代）の社会動態が転入超過傾向にある
・北欧発祥のスポーツ「モルック」の聖地

〔特産品〕イチジク、モモ、クリ、菊炭

〔観光〕多田神社、満願寺、加茂遺跡、知明湖（ちみょうこ）キャンプ場、一庫（ひとくら）ダム、黒川の里山

〔イベント〕清和源氏まつり、猪名川花火大会、一庫ダム周遊里山ファンラン

川西市長
越田謙治郎

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 4

新見市（岡山県）

新見市長 戎 斉

人と地域が輝き、未来につながる源流共生のまちを目指して

新見市は、岡山県の西北部に位置し、鳥取県、広島県と接しています。市域は岡山県の総面積の11・2％にあたる793・29㎢と広大で、その86％を森林が占めていることから、清らかな水や澄んだ空気といった恵まれた自然環境が特徴のまちです。市北部を源流とする高梁川がいくつもの支流を集めながら、市域のほぼ中央を北から南へと貫流し、瀬戸内海へと流れています。北部は中国山地の脊梁地帯に属し、起伏の多い地形が広がり、中央部は新見盆地といわれる盆地地形で市民生活や経済活動の中心となっています。南部は吉備高原の一部に含まれ、「阿哲台」と呼ばれる石灰岩台地が広がっており、石灰岩特有のカルスト地形や鍾乳洞が点在しています。

「A級の誇り」

「A級の誇り」

こうした恵まれた自然環境を背景に、さまざまな地域産品が生産されています。中でも「千屋牛」は、日本最古の蔓牛の系統を継ぐ黒毛和種で、肉質に優れ、本市を代表する産品として全国に知られているほか、大粒のブドウで、甘みと酸味のバランスに優れたピオーネをはじめ、モモ、トマト、リンドウなどの農産品、市内産のブドウを使ったワインや、キャビアなどの加工品も高い評価を受けています。本市では、こうした高品質の食材を「A級の誇り」として商標登録し、ふるさと納税の返礼品として取り扱うなど、情報発信を図っています。

新見市版地域共生社会の構築

平成17年3月末の市町合併時、3万7043人だった本市の人口は、令和2年の国勢調査では、2万8079人と年々減少が続いています。人口減少や少子高齢化、社会情勢の変化に起因するさまざまな課題を乗り越え、人と地域が元気なまちをつくるためには、市民が個々に求められる役割を果たしながら、協働することによって地域をつくっていく全員参加型の社会、いわゆる「地域共生社会」を実現していくことが必要であると考えています。

そのため、小規模多機能自治による「地域共生社会の基盤構築」と「大学を活かしたまちづくり」を二つの柱として取り組みを進めています。

小規模多機能自治による地域共生社会の基盤構築では、市民と市が協働して、地域ごとに異なったさまざまな課題を地域が主体となって解決し、そこに暮らす全ての人を支えられる仕組みづくりとして、地域運営組織の設立やその活動を支援しており、9月末時点で21の地域運営組織が活動しています。

大学を活かしたまちづくりでは、昭和55年に開学し、保育、看

与謝野鉄幹・晶子夫妻が「奇に満ちた洞」と絶賛した満奇洞

護、福祉などの分野で優秀な専門人材を輩出してきた新見公立大学の知見や人材を活かすことで、地域共生社会の実現に向けた取り組みや市全域に関わる課題の解決、地域の活性化につなげています。

未来を切り開くドローンプログラミング教育

本市では、10年以上前から全国に先駆けてＩＣＴ教育に取り組み、情報活用能力の育成を推進してきました。これまでの知見を生かし、タブレット端末やデジタル教科書の導入をはじめ、プログラミング教育や情報モラル教育など、児童生徒が主体的にＩＣＴを活用できる授業を行っています。

中でも、児童生徒の論理的思考力の向上を目指すプログラミング教育については、国が必修化する前から、市内の全小中学校で人型ロボット「Pepper」を用いた取り組みを行っており、プログラミングの全国大会や世界大会で優れた成績を収めています。

ドローンプログラミングに取り組む児童

令和４年度からは、多方面で活用が進む「ドローン」を使った新たなプログラミング教育を推進しており、県内初の取り組みとして注目を集めています。地元企業と連携しながら、発達段階に応じたカリキュラムを構築し、市内全小中学校で展開しています。

ゼロカーボンシティ宣言

本市は令和４年２月に、２０５０年二酸化炭素実質排出ゼロに向け「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、さまざまな環境施策に取り組んでいます。

その中でも、本市では太陽光発電に注目し、特にＰＰＡ事業に力を入れています。ＰＰＡ事業は、民間事業者が太陽光発電設備を公共施設の屋根などへ無償で設置する代わりに、発電した電力を公共施設が買い取るもので、施設の電気代削減も見込めることから、令和４年度には、学校給食センターと新見公立大学に設置したところであり、年間約１９０ｔのＣＯ$_2$削減を見込んでいます。

PPA事業により太陽光発電設備を導入した「にいみ～る」（新見市学校給食センター）

令和５年度は、新たに上水道および下水道施設に導入することとし、現在設置を進めています。今後も可能な施設へ順次導入することで、脱炭素社会の実現につなげていきたいと考えています。

引き続き恵まれた地域資源を生かし、住民と地域が輝く、持続可能なまちを目指して全力で取り組んでまいります。

プロフィール

◆**面積**　７９３・29㎢
◆**人口**　２万６７８７人
◆**世帯数**　１万２６４７世帯

〔将来都市像〕「人と地域が輝き　未来につながる　源流共生のまち　にいみ」

〔まちの特徴〕中国山地の脊梁地帯に位置し起伏の多い地形で、総面積の86％を森林が占める高梁川源流域の自然豊かなまち

〔市町村合併〕平成17年３月31日、新見市と大佐町、神郷町、哲多町、哲西町の１市４町が合併し、新「新見市」が誕生

〔特産品〕千屋牛肉、ピオーネ、シャインマスカット、モモ、トマト、リンドウ、ワイン、キャビア、紅茶、日本酒、備中手打刃物など

〔観光〕井倉洞、満奇洞（まきどう）、羅生門、大佐山、鯉が窪湿原、おもつぼ湿原、新見美術館、猪風来美術館、新見千屋温泉、神郷温泉、夢すき公園（親子孫水車）

〔イベント〕土下座まつり（御神幸武器行列）、ＦＡＮ２０２３

新見市長
戎　斉

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。